

二〇二四年度 入学試験問題

国語

第一回

【注 意】

- ・ 試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・ 問題は一ページから九ページまでです。
- ・ 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- ・ 字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・ 記号・句読点がある場合は字数に含みます。
- ・ 解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

① 次の文章は、フランスの十歳、十五歳の子どもたちに向けたある哲学者の講演記録で、「現代社会における宗教や、何かを信じることについて、哲学はどのような立場をとっているのか、また道徳心や道徳は今どこにあるのか」という聴衆の子どもからの質疑に回答してこの哲学者が語ったものです。これを読んで後の問いに答えなさい。

5

10

15

20

25

30

35

40

45

50

55

60

(ベルナルド・ステイグレル『向上心について——人間の大きくなりたいたいという欲望』)

メランベルジェ真紀 訳

- ★新プラトン主義……………三世紀ごろプロティノスという哲学者がプラトンの教説を受け継ぎ、創始したと言われる思想。
- ★無神論……………神の存在を否定する考え方。
- ★教条主義……………権威者の述べたことをうのみにし、それに基づいて判断、行動する態度。
- ★啓示……………人間の理解を越えたことについて教えること。
- ★旧約聖書……………キリスト出現以前の神の古い約束を告げた聖書。ユダヤ教の聖典。キリスト教の経典。
- ★福音書……………キリストの教訓や一生を記した新約聖書の冒頭の四巻のこと。
- ★コーラン……………イスラム教の聖典。
- ★昇華……………心理学の用語。満たされない欲求や葛藤を、社会的に認められている価値ある行動に変えて自己実現を図ろうとすること。

★マックス・ウェーバー……ドイツの哲学者、社会学者、経済学者（一八六四—一九二〇）。

★合理化……ここでは、すべてを計算可能とみなす、という意味。

★まします……古語。「いらっしゃる」という意味。

★いと……古語。頂点に達する様子。とても、非常に、という意味。

問一 (1) に入れる言葉を五字以内で書きなさい。

問二 — (2) 「宗教への回帰（そう呼ばれているのが正しいかどうかはともかく）という現象が起こっている」とありますが、本文によれば、これはどういう「現象」ですか。三行以内で説明しなさい。

問三 — (3) 「この合理化によって、あらゆる信じる気持ちが破壊（はかい）されてしまい」とありますが、これはどういうことですか。本文の内容に沿って、三行以内で説明しなさい。

問四 — (4) 「本当に信じられるのは計算できないことだけなのです。」とありますが、この表現が意図している内容の説明として正しいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人は合理化によって世の中を知りたいと思うようになるが、何を信じるかの対象はもともと計算できないものだけなのだとしたこと。
- イ 人は希望を失わずに生きるために、現代の計算可能な世界に落ちつくことができず、あらゆる信じる気持ちを失ったのだということ。
- ウ 人は世界の成り立ちやしくみを理解する上で、計算可能な次元での説明では納得できず、だからこそ信仰（しんこう）が生まれるのだということ。
- エ 人は物事を信じる気持ちを失ってしまったので、常に疑うという気持ちを強くして新たに世界を創（つく）り直す必要があるのだということ。

問五 — (5) 「神が死んでしまった現代において信じる対象になりうるのは、やはり「神がかつてそうであったように」別の次元を構成しているものだ」とありますが、ここでいう「別の次元を構成しているもの」とはどのようなものですか。本文の内容に沿って、三行以内で説明しなさい。

問六 A D の中に入れる語として正しいものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。（ただし記号はそれぞれ一回ずつ使います。）

- ア 言いかえれば イ ところが
- ウ ですから エ たとえば

問七 — ア～オのカタカナを漢字に直しなさい。

問八 本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 信仰のあり方は、昔も今も本質的には変わらないが、「神は死んだ」というニーチェの時代から現代に至るまで、信じるという行為自体は危険なものである。
- イ むずかしいことを求めてもつと上を目指そうとする欲望は、人間本来の姿であるが、その時こそ神の存在について現代に示す機会なのだと思えるべきである。
- ウ 何もかもが疑わしい現代だからこそ世界をすべて計算可能なものと見なす「合理化への信仰」が芽生えてきたのであり、われわれはその点を再考すべきだ。
- エ 合理化が進み、世界をすべて計算可能なものにしてしまった現代の社会であるがゆえに、私たちは新たに信じるということの意味を問い直してゆくべきだ。

2 次の文章は、瀬尾まいこ「掬えば手には」の一節です。

これまでの主なあらすじ
これを読んだ後、本文を読んで後の問いに答えなさい。

これまでの主なあらすじ

主人公の梨木匠はごく普通の大学生で、人の心が読めることを取り柄にし、その能力を必死で信じているが、他には個性と言えるようなものを持っていないことに悩んでいる。大学サークルには所属していなかったが、ある時、友人の河野さんから、スポーツサークルのバスケットボールの試合に負けて怒っている香山の機嫌を取ってきてほしいと頼まれる。これがきっかけで、ある時香山の方からマラソン大会と一緒に出ようと熱烈に誘われる。高校時代の香山は卓球部だった。このマラソン大会の結果は、梨木は百人中四十九位。香山は十一位だったが、何か納得のいかない表情をする。そして梨木に小学校の高学年のころよく走っていたことを言いかけてやめる。梨木はマラソン大会に参加して久しぶりに爽快感を味わうことができた。その後、今度は梨木の方から香山を別のマラソン大会に誘う。走るのが楽しくなったのと、香山の話の続きを聞いたかったからである。結果は、梨木は五十人中二十五位、香山は十一位だった。梨木は「お互い順位以外は満足だろう」と笑った。

75

70

65

60

55

50

110

105

100

95

90

85

80

140

135

130

125

120

115

175

170

165

160

155

150

145

問一 — (1)「とんでもないことをしてしまった」とありますが、「香山」にとっては、どういことが「とんでもないこと」にあたりますか。文末を「…こと。」という形にして三行以内で説明しなさい。

問二 — (2)「香山は声に出して笑った。」とありますが、このときの「香山」の心情を説明したものとして最もふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 楽しむことを中心とするサークル活動の空気になじめなくなったのは、走ることを真剣にやってみたいと決意したからであるが、いまさらそれに気づいても遅いと、自分の情けなさを笑っている。
- イ 辞めずに続けていれば陸上選手になれたかという質問から、必死に練習を重ねても思うような記録は出せない陸上界の現実を梨木はわかっていないと、心の中で苦々しく感じながらも笑っている。
- ウ 本気で走ろうと思ったことは、この間のマラソン大会まではなかったので、梨木に会ってから急に走りたくなった自分の軽率さが恥ずかしく、同時に、夢を諦めない自分を励まそうと笑っている。
- エ 楽しむだけのサークル活動を物足りなく感じ、辞めてしまった陸上を今度こそ真剣にやってみようと思いたいと思うものの、今さらそのことに気づいても遅いと自分の愚かさを笑っている。

問三

— (3)「『でもさ、梨木と走ってよかった。』とありますが、ここで「香山」と「梨木」は、お互いに感謝しています。それぞれの心情を、主体（誰が）を明示して二行以内で説明しなさい。文末は「…心情。」としなくてよい。

(瀬尾まいこ『掬えば手には』)

★三雲さん…小学校時代から中学三年まで不登校だった生徒で、梨木とは小

学校からの同級生。中学三年の十月、初めての教室で緊張している三雲さんに、梨木は夏服で登校したことを気にしているのだろうと思って、自分なんか学ランの中はTシャツのままであると言ってその場を和ませ、三雲さんは緊張がほぐれた。この三雲さんが現在の河野さん。通信制の高校に通い、高校二年生の時、河野姓に変わる。梨木との連絡は数回程度だったが、大学進学を決める時、どうしても梨木と同じ大学に通いたいと強く思っていた。大学では明朗快活に過ごしている。

問四

— (4) 『ぼくはさ、中学三年生の時、他人の心が読める能力があるかもって』とありますが、ここで「梨木」が「香山」に語った内容をまとめたものとして最もふさわしいものを次の中から一つ選びなさい。

ア 人の心が読めることは、共に時間を重ねれば誰にでもある程度はできることなのに、普通で何の特徴もないことに悩んでいた梨木は、そんな当たり前のことを特別な力だと信じ込ませなければ進めなくらいに、何も持っていないと思いついていた。

イ 不登校だった三雲さんを助けた時、周りからエスパーだとはやし立てられたことがきっかけで、自分には人の心を読む力があると信じ込んできた梨木は、特別な能力を持ちながらも、それらを真剣に認めてこなかった家族に原因があると思っていた。

ウ 人の心を完全に読むことはできないが、当たり前外れはあるもののある程度はできるようになっていた梨木だったが、香山にとっての陸上のように、特別な力を信じて真剣に取り組もうとする強い意志を持つことはできずに終わったことに悩んでいた。

エ 運動も勉強も普通で特徴がないことに悩んでいた梨木は、人の心が読めるという自分の特別な力を頼るあまり、相手が何を考えているのか、どんな気持ちでいるのかという、ごく普通の配慮に対しては何もしてこなかったことを後悔していた。

— (5) 「香山の他意が含まれない笑顔は、見ているだけで胸のつかえを取ってくれる」とありますが、ここでの「梨木」の心情を三行以内で説明しなさい。文末は「…心情。」としなくてよい。

問六

A・Bに入れる語として最もふさわしいものを次のア〜カの中から一つ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

- ア ペコペコ イ きつぱり ウ フラフラ
 エ げっそり オ ズルズル カ がっくり

問七

(一)

I Iに入る漢字二字を書き、「はつきり言わないでおいだ」

II (I)を濁した」という意味の表現を完成させなさい。

III IIにひらがな二字を書き、「手ばかりや無駄がなくこなせる」(II)なくこなせる」という意味の表現を完成させなさい。

III IIIにひらがな一字(漢字でもよい)を書き、「なるほどと思えない」(III)に落ちない」という意味の表現を完成させなさい。

(二)

a aには、「誇らしげに、得意そうにふるまう様子」という意味の四字熟語が入ります。正しい四字熟語を、次のア〜オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 我田引水 イ 馬耳東風 ウ 美辞麗句
 エ 意気揚々 オ 唯一無二

(三)

次のb〜dの意味説明にあたる四字熟語を、それぞれの空欄に正しい漢字を書き、完成させなさい。一つの四字熟語内の□には同じ漢字は入りません。

b 言葉に出さなくても気持ちが通じ合っていること。

□ () 心 □ () 心

c 細かいところは違っているが、大体は同じであること。

□ () 同 □ () 異

d 大いに飲み食いすること。

□ () 飲 □ () 食

問八

本文の内容に合うものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 香山は、足の速かった中学一年生の時、体育教師に目をかけられて厳しい陸上の練習をさせられ、耐えきれずに辞めてしまつて以後は、本気で走るのが怖くなつて周囲に気づかれない程度に流して走るようになった。

イ 梨木は、他人の心を読むという自分の能力が周囲から認められたとき、三雲さんが初の登校で席に着きにくそうにしていた中学三年生の頃を思い出してみたが、それもただの偶然かも知れないと考えるようになった。

ウ 香山は、以前梨木が体育館で自分を励ましてくれて、それをきっかけにこれまで二回もマラソンを走れたことがとても特別なことに思えてきたので、やはり普通にするので気づけることもある、と梨木を励ました。

エ 梨木は、香山の持っている陸上に関する経験のすべてが香山本人の特別なものであり、やはり自分には特徴がないと悩んでいたが、香山からはむしろ梨木こそ特別な存在だと言われ、悩みが解消されたように感じた。

